

# 営農ファイル

## 農産園芸部門

### 農作業メモ

12月号

#### ハウス胡瓜

促成の摘心栽培では子孫づる、つる下ろし栽培では主枝となる子づるの収穫期です。ハウス内の温度管理は全作型で午前中は26～28℃、午後は23～25℃、夜間は12～14℃を目標に管理します。

摘心栽培では採光・通風を良くするために、孫づるまでは規則的に摘心し、ひ孫以降は成長点を2～3本確保しながら、込みあつた場所の枝を中心に整理します。追肥は10aあたり窒素成分で、月に5～6kgを灌水時に施用します。

つる下ろし栽培でも着果が安定してきたら、午前中は空中湿度を確保するために内張りビニールの開閉により湿度調整を行います。追肥は摘心栽培と同様に行いましょう。

葉ヤケ・芯ヤケ等の症状も見ら

れ、つる枯れ病も少しずつ発生していますので、予防防除に努めてください。

虫の発生（コナジラミ、ホコリダニ、アザミウマ）が初期から多くみられていますので、ハウス閉め切り前の害虫防除の徹底をお願いします。

MYSVの発生時には拔根をし、蔓延防止に努めてください。

#### いちご

低温期に入りスリップスの動きは鈍くなるものの存在はしています。防除の徹底をよろしくお願ひします。また、今期は寒波の予想となっており、締め時間が多くなると思いますが、低温多湿状態では白斑葉枯病の発生が助長されま

#### トマト類

す。病気が入らないようこまめな換気・防除を行うようお願いいたします。

低温期に入るとハウスサイドを閉める時間が多くなります。循環扇の運転、ダクト送風、こまめなハウス開閉等でハウス内の湿度を低減してください。ハウス内が多湿になると軟腐病、疫病、

灰色カビ病、斑点病、斑点細菌病等の発生が懸念されます。

各病気に対しての農薬散布による予防防除も行うようお願いいたします。

樹勢の状態にもよりますが、早めの主枝更新・摘房の実施による樹勢回復に努めてください。また、コナジラミ等の害虫に關しましても継続した防除をお願いします。

#### イチゴ

〔厳寒期に備え、草勢管理に努める〕  
○栽培管理

生育が旺盛に見えてくるが、養水分の吸水量は減っていきます。施肥量が多いと土壤養液濃度が高くなり、吸収が抑えられる可能性が高いので、追肥は草勢を見ながら行いましょう。厳寒期は温度管理が非常に重要になります。注意してこまめな温度管理を行うようお願いいたします。

#### ○病虫害対策

摘葉を行い、ハダニ対策としてベタバタ系と化学農薬のローテーションで葉裏までしっかりとかけましょう。うどんこ病も広がってからは防除が難しいので、予防散布を徹底するようにお願いします。

#### ぶどう

剪定の方法によっては翌年の樹勢に大きく影響します。樹勢に応じて強いものは結果枝を多く、弱いものは少なく残すように心掛けましょう。また、粗皮・巻きづる等は病虫害の越冬源となるため除去するようにお願いします。

#### きんかん

今年産は、夏場の高温により落果が多く、最終の着果が遅い為、12月中旬頃まで秋季加温を実施し、果実肥大を図りましょう。（昼温27～28℃、夜温は、外気温+3℃設定で管理し、徐々に降温していきます）。

果実が成熟期に近くなる頃から、薬剤散布やハウス内の湿度による果実の濡れにより裂果します。このため、薬剤散布は成熟期（12月中旬頃）以降については、できるだけ実施しないように心掛けましょう。また、成熟期以降はうるみ果防止のため、ハウス内気温を外気温と同程度に抑えてください。完全着色（リング抜け）の為に灌水を切らずに少量の灌水を心掛けましょう。